

生活科における令和4年度の授業改善推進プランの検証

取り組みの成果と課題

[成果]

- 花（アサガオ、チューリップ）や野菜（ミニトマト、カブ等）の栽培の常時活動やICTの活用、調べ活動などの手だてによって、自分と自然とのかかわりや自然の特長に関心をもつことができた。
- 2年生では、観察の視点をもてるように、国語科の「かんさつ名人になろう」の学習を通して、色、形、匂い、大きさについての見方を理解してから、観察することができた。
- 友達との交流活動を通して、互いの考えを尊重し、協力し合う態度を養うことができた。感染予防を考慮した上で1、2年合同の学校探検・生活科見学・2年生のおもちゃランドでの交流などで、限定的な異学年交流活動ができた。
- 学校探検や町探検、お店探検、生活科見学を通して、自分と自然とのかかわりや自分と身近な人々、社会とのかかわりについて気付くことができた。
- 発達段階に応じた、自分の考えを表現する機会を設けることができた。

[課題]

- ▲幼稚園、保育園、地域の方との交流が十分にできなかった。
- ▲学級園をもっと活用する必要がある。

生活科における課題

- ① 交流や見学・体験を通して自分と自然とのかかわりや自分と身近な人々、社会とのかかわりで生まれた気付きを、より質の高いものにする。
- ② 創意・工夫の力を伸ばすこと。

生活科における改善策

①気付きを、より質の高いものにするために、国語科と連携した言語活動を行う。

- ・学校生活を支えている人々、友達、異学年児童、保育園、地域の人々等との交流活動を中心にした単元を設定し、発達段階に応じた言語活動の機会を必ず設ける。その際に、国語科の話す・聞く活動、書く・読む活動とも関連付けるようにする。
- ・活動中の児童のつぶやきや、考えをまとめるための付箋、まとめやふり返りの成果物などから、対象に対する良さや自分とのかかわりについての内容を取り上げ、全体に広げて深める展開を入れる。
- ・対象のみならず、友達の良さについても目を向けられるように、話型提示を用意する。
- ・「表現する活動」を取り入れる。児童が活動の中で気付いたことを、言葉や絵、動作、劇化など多様な方法で表現することによって、生み出した気付きを自覚することにつなげる。

②創意・工夫の力を伸ばすために、場の工夫や展開の工夫をする。

- ・教師が教えるべき指導事項を明確にした上で、児童が発展活動に取り組めるような作成のための材料や、読書学習司書と連携した関連図書を活動の時期や場に合わせて準備し、児童が自由に使えるようにする。
- ・製作活動の際には、試行錯誤を繰り返し行うように促す。また、友達の作品を観察して、自分の作品に取り入れられるような活動も取り入れる。
- ・観察の際、タブレットで撮影することによって、教室でも細部まで観察できるようにする。また、自分の観察物や作成しているものを撮影し保存しておくことでいつでも見返すことができるようにするなどICTを活用していく。
- ・単元の導入の時間に、全体で活動を考える「さくせんかいぎ」の時間を設定し、児童の思いや考えが学習に反映できる場を設定する。その際に特別活動の時間と合科で児童が自分自身や友達同士で工夫する活動と関連付けるようにする。